

オーエスキー病撲滅のための ワクチネーション

群馬県・(有)サミットベテリナリーサービス 石川弘道

はじめに

オーエスキー病（AD）は豚ヘルペスウイルス1によって起こる豚のウイルス病です。オーエスキー病ウイルスは二五℃環境下での生存期間は、尿中で一四日、唾液中で四日、ラグーンで四日、ふん中二日、作業着上で一日という報告があります。またオーエスキー病ウイルスは一五kmから四〇kmは空気感染するといわれています。

豚のほか、イノシシ、ウシ、ヤギ、イヌ、ネコなど多くの哺乳動物に感染します。豚、イノシシ以外は感染すると一〇〇%近く死亡するといわれていますが、ADウイルスに感染し耐過したイヌの報告があります。

オーエスキー病の症状

ADの主な症状としては、繁殖雌豚の異常産、雄豚の精液性状異常、肥育豚の肺炎、そして哺乳子豚の神

経症が挙げられます。

陰性農場に初めてADウイルスが侵入すると、流産や死産の発生で最初の異常に気づくことが多く、ADウイルスは妊娠中のどの期間でも胎盤を通過するため、あらゆる妊娠ステージで異常産が起ります。妊娠初期の流産の場合は、胎子は吸収され、再発情という形で現れます。また異常産だけではなく、母豚や肉豚の一過性の食欲不振、哺乳子豚の神経症状などの症状を示します。AD陰性農場でこのような症状が見られた場合、ADが疑われます。

哺乳子豚や肥育豚にも同じ神経症状を認めるときもありますが、典型的な症状が見られるのはやはり哺乳子豚です。哺乳子豚の神経症状は全身の震えやけいれんが認められ、起立困難に陥り、足を前後にもがくなどのでんかん様発作を示した後、死亡します。哺乳中の子豚の死亡率は八〇%に達するといわれ、ADは日齢が若い豚ほど死亡率が高いことが特徴です。肥育豚では神経症状を示すことは稀ですが、Appやパスツレラなどの細菌との混合感染による

肺炎が問題となります。

いったん農場にADが侵入して、時間が経過すると繁殖障害や哺乳子豚の神経症状は落ち着いてきます。しかし、その後ワクチンを接種しないと、子豚の神経症状が散発します。場合によっては一腹に一頭だけ発症するというケースも認められます。

オーエスキー病撲滅の意義

以上述べましたように、ADは養豚産業に甚大な被害をもたらす重要疾病です。農場がAD陽性になってしばらくすると、表面的には症状が落ち着いてきて、あたかも被害がなくなつたかに見えます。しかし散発的に異常産が発生したり、肥育豚での肺炎症状が重篤になったりして、潜在的に大きな損失を与えている可能性が高いのです。その国や地域から病気を駆逐するということは、究極の豚病対策になります。われわれは長年豚病に苦しめられてきました。その対策としてワクチン接種や抗菌剤の使用などで対応してきました

オーエスキー病清浄化を目指して

表1 オーエスキー病清浄化の手順

- 地域によるワクチネーションの徹底
- 抗体検査による清浄度の確認(識別検査が必要)
- 野外感染豚の淘汰

表2 オーエスキー病清浄化ワクチンプログラム

対象動物	ワクチネーションプログラム
繁殖候補豚 繁殖豚群に導入する までに3回	10~12週齢および14~16 週齢(4週間隔)さらに20 ~26週齢
母豚と雄豚	4カ月ごと (すべての豚に一斉接種)
肥育豚 野外感染豚群	2回接種(移行抗体消失の 10日前が適期)
野外感染陰性群	1回接種

オーエスキー病清浄化の手順を表

手順
オーエスキー病清浄化の

が、そろそろ限界に達してきた感があります。昨年、われわれは豚コレラの清浄化を達成し、「われわれもやればできる!」ということを実証し、大きな自信になりました。そして次の目標がAD清浄化なのです。「撲滅できる病気は撲滅しよう」というのが、今日の大勢です。

1に示します。

(1) 地域によるワクチネーションの徹底

ADワクチンは、ワクチン抗体と野外感染抗体を識別できるという画期的なワクチンです。しかし野外感染を完全に防げる能力はありませんが、ウイルスの排せつ量は減少させることが可能です。AD清浄化は、このワクチンの特性を加味したものに なります。すなわち地域で同一歩調をとり、徹底したワクチン接種を実施する必要があります。そのことにより地域における野外ADウイルス量を低下させ、野外感染の機会を減らすことが可能になります。

(2) 抗体検査による清浄度の確認

前述したとおり、ADワクチンによる野外感染抗体とワクチン抗体を識別できる画期的なワクチンです。ワクチン接種を徹底していくと、農場の豚は徐々にワクチン抗体を保有した豚が大勢を占めていきます。定期的に抗体検査を実施し、野外感染抗体を保有している豚が少なくなってきた

ているか(ワクチン抗体の豚が増えてきているか)、確認することが重要になってきます。

(3) 野外感染豚の淘汰

農場のほとんどの豚がワクチン抗体を保有する豚になってきたら、少数残った野外感染豚は早めに淘汰するようにします。そのことにより清浄化が加速されます。ADの特徴として、一度感染した豚は生涯ウイルスを保有し続け、ストレスなどが加わるとウイルスを再排せつします。一度野外感染してしまった豚は、その後いくらワクチンを接種しても、ウイルスを排除することができない

のが、ADのやっかいなところです。肥育豚は野外感染を受けても出荷され半年でいなくなります。繁殖豚は二年以上その農場にいるわけですから、野外感染を受けた繁殖豚は、できるだけ早めに廃用にすべきです。

オーエスキー病清浄化のためのワクチンプログラム

AD清浄化のためのワクチン接種

プログラムは、大変シンプルなもので、以下のとおりです(表2)。

(1) 繁殖候補豚

一〇〜一二週齢および、一四〜一六週齢で接種し(四週間隔)、さらに二〇〜二六週齢で接種します。

(2) 母豚と雄豚

四カ月間隔で全頭接種します。

(3) 肥育豚

野外感染が認められる場合は二回接種します。一回目は移行抗体消失の一〇日前が適期です。野外感染が認められない場合は一回接種でかまいません。

大切なことは、その地域の農場が一斉にそのプログラムを開始することです。

